

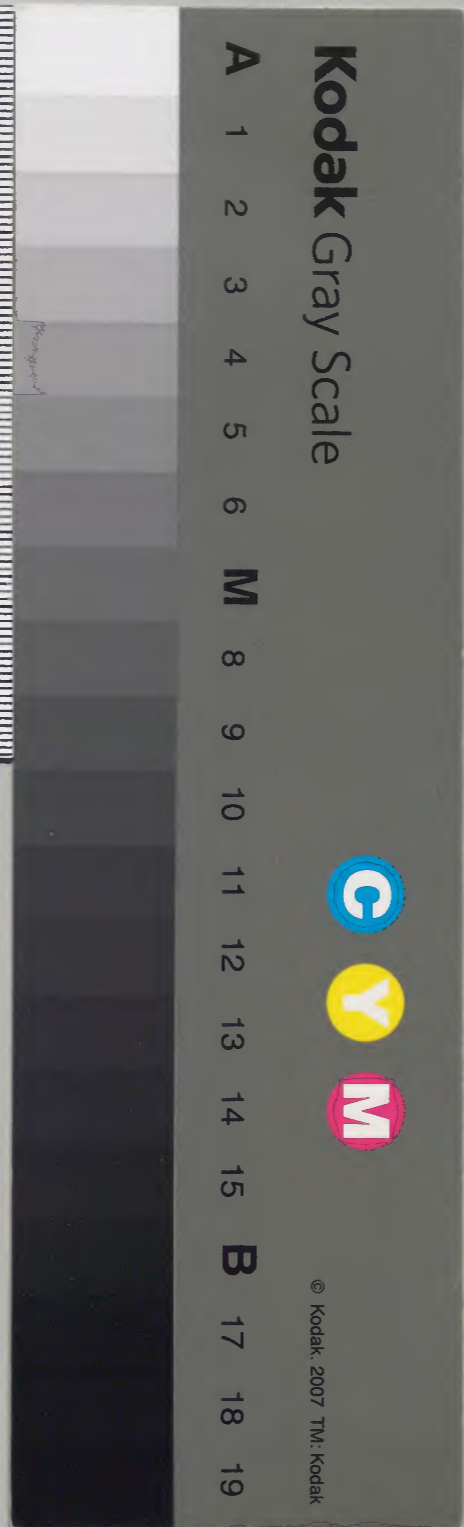
長崎實録

和書門			
八冊	二架	九函	六二號類

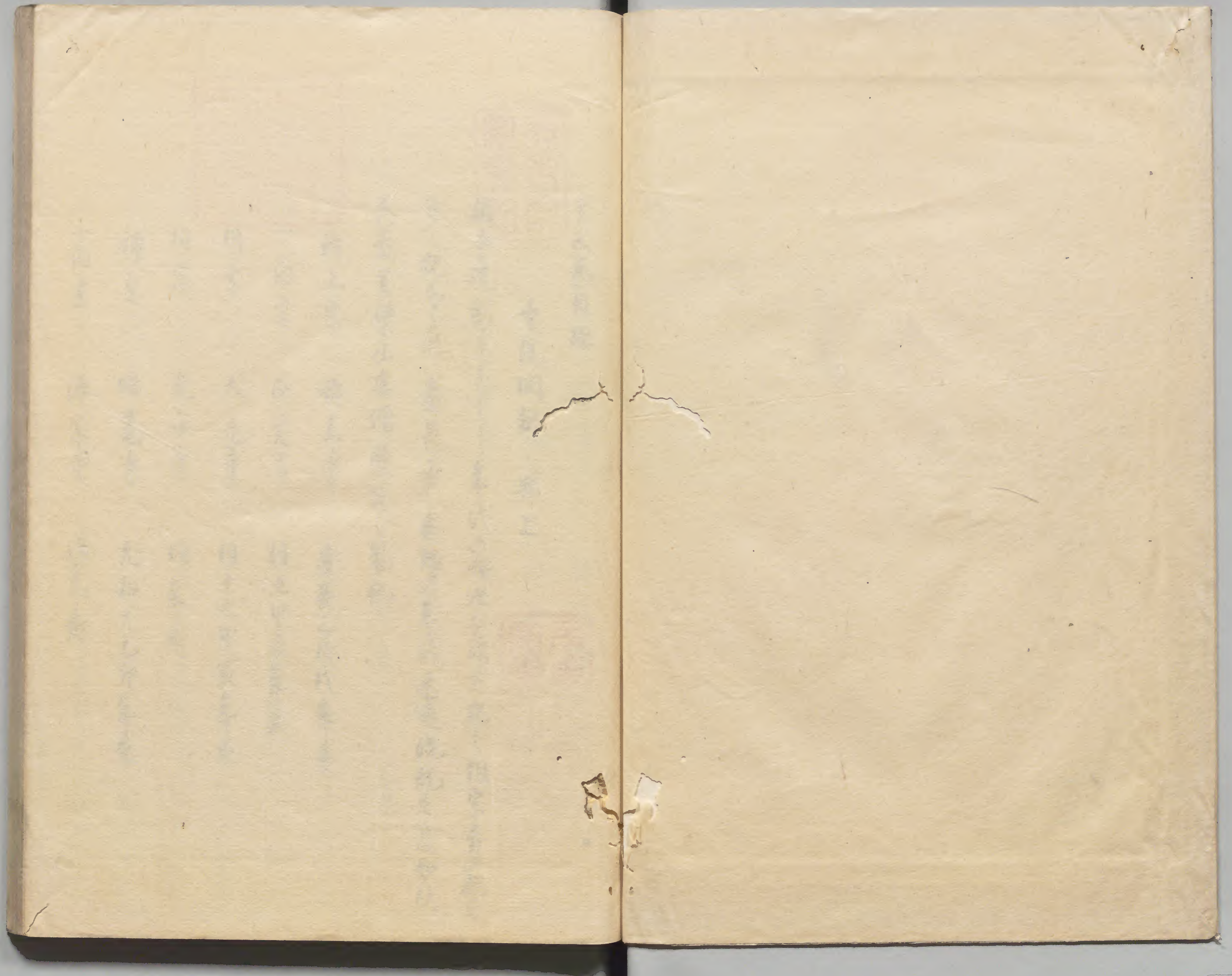
内閣文庫		
毛函	八冊	和書
一〇架	二架	六二號類

七八

内閣文庫	
番號	和 8862
冊數	8 (4)
函號	176 100



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



中々卷目錄

寺院開創部上

諸寺院創建ありし年次の順次を以て記し、但字首の部を

分て記し、時(當邑)少く、建始の年次、迷速混乱を以て如し

卷首、黄檗山唐僧歴任(畧)記



淨土宗 怡長寺 慶長二戊戌年建

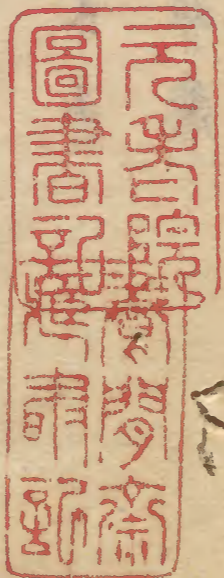
一向宗 正光寺 同九甲辰年建

同宗 大光寺 同十九甲寅年建

同宗 光永寺 同年建

禅宗 昭菴寺 元和元乙卯年建

一向宗 源宗寺 同年建



去言宗 延命寺 同二丙辰年建

淨土宗 大音寺 同三丁巳年建

法苑宗 本蓮寺 同六庚申年建

禅宗 興福寺 同年建

淨土宗 法泉寺 同七年酉年建

去言宗 清水寺 同九年亥年建

淨土宗 之安寺 同年建

同宗 淨安寺 寛永元甲子年建

天台宗 觀音寺 同三丙寅年建

淨土宗 聖地寺 同年建

一向宗 觀音寺 同年建

去言宗 體性寺 同年建

美壁山唐僧歷任(畧記)

嚴有院極寺在世之時取意元年古昔足利家の例に準せらる

日域小禅刹一字法創建危國より道徳優長の僧を可令

持名 上意より當表興福寺の住持逸然方々危國經

心寺貴徳和尚の法嗣福州府美壁山の住持源元和尚

方小法請し紙再之申入刹 許諾ありて取意三年七月當

表興福寺小表意より仍白明暦元年城州宇治郡大和

田の地一寺開創より取元和尚開基し初祖法師付美

礪山芳福寺と稱す、以後長崎ニテ寺在傳と内徒有る傳を撰入、以て可法令繼席を法依傳とす。

開山 隆元 琦 禪師 明曆元年開創

永應三甲午年、隆海長崎興福寺に在る、唐國より進侍僧二十人、之に内大眉、獨知法、獨吼、獨立、良、演、唯、一、祖、彼、是、上、以、十、八、坊、從、陪、侍、と、り、其、外、十、人、翌、年、均、唐、を、明、曆、元、乙未年、出、州、字、依、黃、壁、山、芳、福、寺、と、り、開、基、の、初、祖、と、成、り、列、大、光、普、照、國、師、の、號、を、賜、ふ。

二世 木庵 瑠 禪師 寛文元年繼席

明曆元、乙未年、隆海長崎福海寺に在る、其、師、三、庚、子、年、抄、州、善、つ、と、り、入、寛、文、元、辛、丑、年、黃、壁、山、芳、二、世、繼、席、と、り、ぬ。

三世 慧林 檇 禪師

隆元、隆海の初、の、進、侍、と、り、隆、元、内、獨、知、名、を、慧、林、と、改、す、三、世、繼、席、と、り、ぬ。

四世 獨法 瑩 禪師

隆元、隆海の初、の、進、侍、と、り、隆、元、内、才、口、世、繼、席、と、り、ぬ。

五世 高泉 傲 禪師

寛文元、辛丑年、隆海寺、本、山、と、り、才、口、世、繼、席、と、り、ぬ、但、慧、門、の、才、口、と、慧、門、ハ、隆、元、の、才、口、と、り、ぬ。

六世 千歎 安 禪師 元禄八年繼席

元禄三、庚子年、隆海長崎興福寺、才、二、代、住、持、と、り、元、禄、八、乙未年、黃、壁、山、と、り、才、口、世、繼、席、と、り、ぬ。

七世 悦山 宗 禪師 宝永二年繼席

寛文年中、本、寺、の、進、侍、と、り、本、山、と、り、寶、永、乙酉年、才、七、世、繼、席、と、り、ぬ。

八世 悦峯 章 禪師 宝永十年繼席

貞享三、丙寅年、隆海長崎興福寺、才、二、代、住、持、と、り、寶、永、乙酉年、黃、壁、山、と、り、才、口、世、繼、席、と、り、ぬ。

九世 靈源 脈 禪師 享保元年繼席

元禄六、癸卯年、隆海長崎興福寺、在、傳、と、り、享、保、元、丙申年、黃、壁、山、と、り、才、九、世、繼、席、と、り、ぬ。

十世 旭如 道 禪師 享保二年繼席

正徳九年卯年倭海長崎興福寺小正徳と云保二丁酉年英嶺山と云り中十世純席と云

十一世 楊文炳 禪師

享保六年純席

元禄六年酉年倭海長崎福海寺中六代の住持と云享保六年庚子年英嶺山と云り中十世の純席と云

十二世 果堂和 禪師

享保七年純席

享保六年辛丑年倭海長崎興福寺中六代の住持と云同七年庚寅年英嶺山と云り中十二世の純席と云

十三世 竺庵印 禪師

享保十九年純席

享保八年卯年倭海長崎興福寺中七代の住持と云り同十九年庚辰年英嶺山と云り中十二世の純席と云

十四世 竜統棟 禪師

元文五年純席

中縁河内国信長門国東光寺の住持と云元文六年庚申年英嶺山と云り中十三世の純席と云

十五世 大鵬親 禪師

延享元年純席

享保七年壬辰年倭海長崎福海寺中七代の住持と云り延享元年甲子年英嶺山と云り中十二世の純席と云寛延元年辰年休見保壽庵小退隱と

十六世 百齋拙 禪師

寛延元年純席

真別祖意の産江戶海川海福寺の住持と云り寛延元年辰年英嶺山と云り中十六世の純席と云

十七世 祖眼明 禪師

寛曆九年純席

江州美根の産江戶白念慈瑞重寺の住持と云り寛曆九年庚辰年英嶺山と云り中十七世の純席と云

十八世 大鵬親 禪師

寛曆七年再住

寛延元年辰年休見退隱と云 上三寛曆七丁酉年再住と云り中十八世の純席と云

長崎実録大成才小巻

田島八右衛門茂啓編輯

寺院開創の部と

降土宗祇西本山 龍後若導寺末寺

終南山悟玄寺 寛長三庚戌年建

境内を百坪 稻佐郷と曰

元龜天正の以長崎小南蠻人惹船して徳人小切支丹の邪宗
門を勧の到く神社佛と一字も少らも破却して悉く横所よりを以市
中へ神官候諭詣尼の輩御個をれ、邪徒の志を種く障得を敷と申
ふ小及之し懸ふ交長力初龍後若導寺の中子聖巻云故と云
僧長崎小来し小徳人思執謀意のこらをも、河とて佛に引接し邪を

を離るしり人事を敬とこしを容易ふその逆をこし佛に稻佐、以村の地
庭室を構へて懇切小浄土の法門を教導するふ日を以て心だ、信服と云
追て數多成道ふしをを開創し、佛と云と稱し若導寺の末と云
是長崎佛と再真の略し

一 先年歐華字と云て長崎住居を免ふのし、こゝ原稻佐 在津の屋敷
亡の時埋葬せし、凡菩提をわねるふ不稻佐村の田百間口方の地をおふ
一らり創以地内、悟玄をを建、唐船をたふ、こゝ原稻佐 又と号進の糸香
花料等を号附せり、但度人町宿の時、以ちの墳墓、糸信吊札
を、こゝ原稻佐 多し、こゝ原稻佐 小丸祿の初度人屋敷、在後せし、こゝ原稻佐 度人、こゝ原稻佐 漫り、こゝ原稻佐 小出所成難
と付以ち、糸信と云、こゝ原稻佐 稀ふし、こゝ原稻佐 度人、こゝ原稻佐 小墳墓を建、こゝ原稻佐 度人、こゝ原稻佐 殿内
小こゝ原の僧徒を迎へて、こゝ原稻佐 誦經、こゝ原稻佐 読書を成せり、こゝ原稻佐 佛を、こゝ原稻佐 昔と云、こゝ原稻佐 小稲、こゝ原稻佐 寺附

寺を修むるの例の如し

一 延喜六年四月當与禪一曰鑄造元祿二巳巳年重鑄

一 増上寺中二十日世第大僧正雲外書院南山堅願寺

開基 聖養 延喜七年
在延九年 二代 尊養 寛永七年
在延十六年

三代 法養 貞保二年
在延二十年 四代 仰養 寛文四年
在延三十二年

五代 信養 元祿三年
在延十八年 六代 称養 貞徳二年
在延十六年

七代 圍養 享保十二年
在延十年 八代 教養 元文元年
在延十六年

九代 貫養 貞曆二年

一向宗 京都佛光寺末寺

光壽山正覺寺 寛長九甲辰年建

境内子二百三坪云合八勺 小嶋山

當寺開基道智長の次當表小末一云以八邪宗の教具一と神

社佛と悉く破却せり後道智徳而下て流法教化して邪宗を翻

し正法を復せり云々是は古傳本行小笠原氏一寺開創也一云元祿許

る故元初平承と云所小當与弟創と云是當表市中仏寺創建

の地と云西中祝との末胤と云云後教統と云云延喜四年今の地當

寺を移せり

一 元祿十一年佛光寺末寺と云當与居職院家小中付の寺家を祝

し元祿許と云廣海寺達相寺二ヶ所を建

一 寛永十一年八月當与境一曰鑄造と云

因基 道智

安長九年
在元二年

二代 了悦

寛永三年
在元二十年

三代 聚海

正保三年
在元十二年

四代 海通

元禄十一年
在元二十年

五代 海超

享保十年
在元三十二年

六代 憲瑞

享保九年
在元二年

七代 徹瑞

享保十一年

一向宗

京都西本願寺葱常所

大谷山 大光寺

安長十九甲寅年

境内 太子九百八十八坪

高野平 四月

當寺の末寺と成り安長十九年分正保十年迄住職二十年

二代西派安元二年住持寺同日二年當寺を本山小差上寺より

本願寺御門跡の葱常所と相成り治坊の法成寺長崎一風の
嗣以と成住職して其之留居と相成り安元二年分延享四年
より二十八年分以て後本山分輪番留在寺して公用寺法を相勤す

輪番留

西圓寺

妙光寺

教宗

令別寺

一 三代西派寛文九年分留居と成り元禄元年迄在元九年

一 寛文十二年四月當寺を一日跡造す

一 四代西順

元禄二年分留居と成り
享保三年迄在元十二年

五代鳳瑞

享保六年分留居と成り
元文三年迄在元十九年

一 六代安宗

元文四年分留居と成り
延享三年迄在元八年分より後て本山分遊院中付す

一 延享三年六月分同日分延享四年四月迄本山分使僧光蓮と相勤す

一 延享四年六月分九月迄看坊と相勤す

一 同年九月分享保三年六月迄輪番留光と相勤す

- 一 寶曆三年五月十日三年三月延看坊齋園相勤
- 一 同治二年二月十日瑞壽祇園寺相勤同十一年六月延在寺八年
- 一 同十一年六月十日瑞壽池寺相勤

一向宗 京都東本願寺末寺

其山號 光永寺

其長十九甲寅年庚

境内七百六十二坪八合六勺

楠庭町 古河町

當寺開基慈西唐津出生る其長の以當表小來り在る可
 与去宗の法門を説て教多の男女正法を傳せし以名法華行
 名若川氏開及は是一寺可建立申允許して京都東本願
 寺末寺と取り當寺開創せり

- 一 天和三年日武多順在彼の時本山の治坊格、法中付依、為後傳与
- 一 家を古能の如能と免許あり開名を光明寺二寺取与中、建
- 一 當寺隆一曰勝造とて祖瑞字等、故建立の年月既未小不能
- 一 正徳元年乙巳圓隆在彼の時本山より院家昇進允許とて

開基 慈西 寛永十六年
在彼七年

二代 慈傳 寛永三年
在彼八年

三代 教順 日代 為順 享保元年
元禄十一年
 在彼十八年

禪宗曹洞派

肥前流嘉玉林寺末寺

勅編 海雲山普照庵慈寺

元和元乙卯年建

境内を歩み六百七十七坪

汗良林郷

當寺元初受長年中平戸公孫翁と云信後所山子岩系村に
内へ開創し是れ山洪養寺と稱せし元和元年肥前統嘉王
林と^{物取}所 住持一庭和尚系那小法為石也為 とき長備南
蠻人善願して邪宗の象鼻と地とあるを言彼地小於て法人を仏法
正乃小信胎せし邪を離れし創洪養寺の住職を山住持と爲
象 今令一庭住持と當寺小住持して説法教道淨誠を爲し
先づ長崎の頭人よりし教家を治市中法人檀家を隨從するを授奉
し雖し是の年月を経る小池の邪軌の風俗漸く小消滅也

一 寛永三年高野平村の内今の地とを移し一庭中真用山と爲
但元の洪養寺明地と成りし正保年中八幡宮社建るをり

一 同十二年陽系天草一揆伝法の信法伝友親本二席九席天草小在勤を
正保の初當寺の一庭和尚を招請し天草中の法良一庭和尚の教道と更
末寺一寺を草創し國興寺と稱せ但此寺天草中の本寺より來る
造り九寺を建て後年因出で略基とを離末寺と爲る小なるを以て元
來るより故 跡末寺小相極むる

一 同十九年江戸系府治目元正保付之と違

明正帝敕聞同年月九月十七日系内より勅賜了外廣元禪師の號
案衣花海雲山普照略基と云英紙の法論旨頂戴を以て創略基と云
改稱也

一 同年壬午齊當寺種一日請造る

一 正保三年一庭住持當寺末寺二寺を開創る

一 同日午南寶船來津之節當与の境地在以て其節の上使松尾藩の陣不し相成。

一 近年切支丹の黨尾息の候 大猷院棟達 上聞安元二年法永平

法下編

法永平の字

肥前國彼杵形長崎の内昭慈寺境内山林竹木未令免許之畢永不可互相遠去之佛の勤行亦急慢去之

正保六年二月十七日

一 安元二年一庭和尚隱居後修之治航中上當表(大切の場)切支丹令斷滅正法可令胸腹後寺小石治村上(後)の儀道徳兼徳の治を相携ひ以 上之儀職法 治村(下)度奉能(此)列航(白)治

欠(高)同(年)常(州)長(貞)寺(治)持(石)山(和)尚(為) 上(意)江(府)下(法)為(正)能(治)前(治)老(中)治(列)有(今)度(長)崎(昭)慈(寺)治(職)法(治)能(系)彼(地)異(國)本(朝)會(津)之(地)列(与)勤(行)之(急)慢(邪)宗(の)禁(絶)し(再)發(之)候(嚴)密(可)相(勤)法(治)後(思)田(無)前(与)法(治)村(長)崎(之)法(送)届(入)院(之)以(後)改(之)治(持)交(之)節(法)國(大)地(古)師(不)限(當)与(法)書(付)後(復)相(形)之(於)之(治)吟(味)之(上)治(老)中(連)署(以)治(寺)書(任)職(法)治(村)私(候)之(長)崎(法)寺(行)可(法)治(通)之(以)互(上)法(送)之(以)後(の)定(則)之(候)。

一 三月月舟和尙安藝國廿日市東雲寺住持有(り)しを明曆二年宣
四月治老中連署乃以治寺書昭慈寺住職法治村松平安藝寺より
法送

一 純自治礼糸府登城の節能治白書院、一末一卷然上信員元法
治時治暇に於て節於檢の同時能三の淨成法治時治の信持存の例
治治時

一 貞享四年 東山院治字に代玄光依就之代月舟遷化の辰勅賜大
機盤空禪師の謚號を下し賜ふ

一 右来分年治八明治礼能寺社の列小三混雜別席小相勤の礼実

永四年 常憲院攝治代儀持院末寺大徳与治取立舟大

徳与を首有可法治時と礼當寺先代の勅書能以 上意成之儀職法

治時小付暗意寺の次大徳与相勤のを次大徳与本蓮与吉本

若徳与相勤の礼実永七年九代の外在治の節暗意寺十代共嚴

古来与抄の申能也以て先抄の能事能の礼一旦法治也の治免

是の仍る共嚴當寺 東照宮神勅の能事

明治帝の勅書法成下治老中連署を以て辰治法治時小申能也の礼代

節若先抄の改法治時能於ての抄治職法の上を以て寺抄法治時

小付抄能也より先の竊事ハ法先返別日の治能申物も小於てハ何會

も三相障寺抄も恒しく相立下中ハ治内意もも小付別を能り於事抄

上之能能の能別日の治礼法治時ハ尤也ハ治来中地与社系會

節ハ暗意寺上能也ハ能事竊書寫先上節ハ暗意寺、寺社中寄

合中後也の抄

一 延享六年ハ代逆流代大佛殿建

一 同七年同在治の時妙相寺を開創 末与と也

一 同年同代山門建

一 同平元初八大門磨石所口、石之机今年根石所口引移し藪林を切
拂ふ坂道石版等築立今の如し大門建也

一 貞享四年丁卯六月廿八日長崎出陣大沢左玄忠甚誓能當表
卒去當与増改聯隆院境内小葬送

法号慈照院殿性才自徳大居士

一 享保十七壬子年山上七佛如来石像建

了外廣光禪師
開基

一 庭 元和元年
在保二十三年 二 伏雲山 享安二年
在保三年

三 伏 大藏盤室禪師
月舟 明暦二年
在保十三年 四 伏玄光 寛永八年
在保六年

五 伏 逆流 延享二年
在保十年 六 伏徳元 貞享元年
在保十二年

七 伏 了潭 元禄八年
在保七年 八 伏重圓 元禄十四年
在保十年

九 伏 雲外 寛永七年
在保三年 十 伏尖巖 正徳二年
在保九年

十一 伏 右窓 享保六年
在保十八年 十二 伏一丈 元文三年
在保十六年

十三 伏 一枝 享保三年
在保七年 十四 伏恩岳 享保十年

當寺塔目

聯隆院 伏中塔為監護五伏逆流伏建

院内之觀音堂 稻荷社

玄珠院 本寺之外地方未嘗有宿坊日伏建

松心院 後方氏先祖位牌不同伏建

海慈庵 大仏殿花經卷為与護日伏建

耕雲庵 山中為与護六伏徳元伏建

一向宗 京都西本願寺末寺

東林山源宗寺

元和元乙卯年建

境日子田百七十坪

淨良林口之内

當寺開基淨空の唐津出生の縁當表法所より流法教化し初
今將多町に遷し人麿尾町に移るを度此地譲請る

一 當寺の地元の禪宗東林山東禪寺開祖と云僧一与草創と云は檀
家甚稀小く相續成難に於て寺を捨て當表を遷去するを度宗方
信と云僧此地一与九と云と云に於て又信師の志安くして在後宗方
此地に淨空小儀より譲り淨空西本願寺より相譲り此所を
山号の元と云寺号を改め元和元年當寺開創と云

一 施主後長原右衛門當寺禱一百坪造るに年代不記

開基 淨空

元和九年
在後十二年

二代 了益

寛永六年
在後十八年

三代 不入

正保二年
在後九年

四代 了水

寛文九年
在後十四年

五代 梅隆

寛永六年
在後十年

六代 善公

享保三年
在後十四年

七代 雅榮

元文六年

去言宗 京都信室仁和寺末寺

醫王山延命寺

元和二丙辰年建

境日子八百坪

淨良林口之内

當寺開基竜宣京師仁和寺小屯山し當表去言法孫の一与創
建此處を相譲り此所を免許を仍る當寺に開創し本當業所
如來を安置し刹仁和寺の末寺と云に於て法流一邇り相譲り
更て此の形義常法流所より流法を集て論議指南と云に始り

許收を授り来り永く院家無常を免ふ。

一 當寺を修む法中の内務福寺喜光寺徳仁寺圓福寺法茂相傳を更て各一寺を建當寺の末寺に之を承て

一 當寺内役僧と家をおけしむ免許を普門院聖徳院二寺承て

一 言智本山智莊嚴院より出所者使僧入來し師為宿坊言智庵建て

一 正徳二年七月當寺と隣一口誘遊す

舟才天堂 地中 十兼 天満宮社 地蔵堂

開基 竜實 元和二年下 在任二年 二代 吉光 享安元年下 在任十七年

三代 光玄 寛文四年下 在任九年 四代 寛雄 貞享四年下 在任七年

五代 晃雄 正徳二年下 在任九年 六代 鳳雄 享保二十年下 在任十九年

七代 徳雄 宝暦四年下

淨土宗 京都知恩院末寺

正徳山大音寺 元和三丁巳年建

境内二百三子六百二十坪 淨良林口と内

當寺開基傳念上人、安部家の末葉又を安部八郎と云り念札の討死を以て嫡子小右衛門母子孫傳念と流落し九歳の時正徳山末寺院

養上人を於て出家を遂て十歳の時為次學園東之部に七歳の時當寺末寺より八歳末十九年覺母村 長崎 七里 覺徳寺と城養上人法縁の末葉より成りて

長崎表切支丹の覺氏を河とを弘道の正法に可令悔誠念取る當寺末寺より古所なる淨徳を傳と述と云志ある所の所承院に我が安置し原く言致し仏信

心ありて言聞及ひ傳養上人彼所より修行傳と述、對面し傳の所承院佛を淨孔を傳と述、答應し何とて傳修行所小所く如て一寺を建て

法力を以て愚民を邪見を翻し正道に法令の股を以て先づ以て最る法を以て
我日之信をのちを築の神用法を以て教を以て十人相集り之類の法を以て
余人信法由依を成すの法を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
の人教を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
九正法を教導す可き之由を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
之人を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
相成して先づ信をのちを築の神用法を以て教を以て十人相集り之類の法を以て
内小三間之間中の座を造り阿弥陀佛を安置し之人を以て之を以て之を以て之を以て
誓之人を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
時中道院の号を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
一 聖年元和元年七月長谷川氏上人曰く可成出を以て之を以て之を以て之を以て

一 獨り當時時院を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
中言とも長谷川氏向後由依を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
免る若し重る人々好むを以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
依能来を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

一 同二年於江府長谷川氏當者信誓之人能く法法教化小依て教多の人民
佛道由依の志を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
多町を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
年九月上人曰く余と首尾好法目見法信付信眼を以て之を以て之を以て之を以て
淨法信付信志を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
号授らるる 但此の地今下町を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て
の以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

一 寛永十六年西京一揆退治の後松平将軍が當表小法立教長年來
傳教教化に依り邪宗門の志は大衆佛法の正道に歸服するを要し
届りては市中に於て一揆の如く是れ未だ中より改年今の地と移せ
しめ為り料渡百枚に相与之

一 同十七年信長市に依り札を札同十八年札を札に付

信長市に字

肥前國破杵郡長崎に同大音寺境同山林竹木未詳
合界階々の中 永く其相違なき也

信長市に字

先年右利支丹宗に刻紙為信利林宗に二所録之
音寺奉於長崎海軍宗門に依り改改之軍教多し

台施院標記 同右居於破不補地并山林竹木未詳
半海台今度右旨紙連 上開所佛法証陸与可急候之旨
信長市補地に 信長市に成下志也仍如件

堀式部右補連

松平出雲守勝隆

安藤右衛門重長

寛永十八年己九月十八日

大音寺

一 音寺種一口分進を但以種元切支丹の種なりし由證字等之同付喚種一口
双盤一對寄進を 安永二年卯月常陸大塚宗味証あり
一 安永二年信長牌所遺宗法信長
一 同年檀中絶之に山門建

一 天満宮社貞享四年建

一 観音堂元禄元年建数年后破損小付延享二年建絶

一 延享二年丙寅三月廿七日由備前守行松波海前与心房能當表

一 車去當寺葬送

法号宏智院殿英誓心房察亮大居士

一 宝曆十四年甲申六月十日由寺行大恩英德与忠移能當表年

去當寺修院觀照院境内葬送

法号敬光院殿深誓忠移心嚴大居士

開基 德誓

元和三年
在延三十二年

二休 廣誓

享安二年
在延十二年

二休 法誓

寛文元年
在延十五年

三休 顔誓

延享三年
在延十七年

五休 去誓

元禄四年
在延九年

六休 徳誓

正徳六年
在延十一年

七休 忠誓

享保十一年
在延十六年

八休 惟誓

元文五年
在延十八年

九休 眞誓

寛延元年

當寺塔院

觀照院 寛永十七年開基德誓休建

專修院 正保四年右月休建

常照院 享安三年二休廣誓休建

常念佛堂 延享七年三休顔誓休建

法苑宗

京都本國寺末寺

聖林山本蓮寺

元和六庚申年春

境内を百十坪

岩原に石

昔寺開基本瑞院日慧聖人の肥後熊本の出せり大村の事傳る
 伯職を元和の頃名備表小来し小を以邪徒の志絶さし小聖
 人法苑法門を説法演説を以破法戒の場小瓦石等を投打
 種々妨を成る志多しといふ元より不悔身命の執言を致し彼を以て教
 道するし小返小邪を翻し法苑の正法を胸懐する志數百人小及り以名法
 奉行を達し以寺地八百坪切支丹と云々焼捨小成し舊地成しを聖
 人小授りて當り開創し聖林山本蓮寺と稱し京郊本山小お前の創
 本國寺未と云とあり

一 正保三丙戌年十月上旬當り鐘一口誘送る

一 享安元年二戌日感如府洋礼年勤之如法自身法如付法来中
 頂戴を向度成く如能自洋礼可相勤をる時腹三洋成法如付
 法来中と字

一 肥前國彼杵郡長崎の内本蓮寺境内山林竹木法及小令
 免除之況取不可有相違者佛寺勤行不可怠慢云々

正保五年二月十七日

一 元禄十一年當り執統一教年法を立置し、寛永二年九戌日隨在江
 の内山地の内を數入地敷を廣り中法堂塔と沙造等々を本堂小
 邊瑞道場方額を上る

一 元文元年丙辰年六月九日細井札舟歌長崎年去り當り葬送廻
 同端り吹男也 法号寛福院瓊心日淨居士

一 同年九月十八日長壽寺行細井田橋与安明於當表年去

當与表送 法号陸槻院殿仁山安明白融居士

一 寶曆三年十二日急休山門建

一 同十一年六月日休門内小首題塔建

開基 本福院 日慧 元和六年 二休 一休院 日感 寬永十九年

二休 普利院 日周 享安二年 日休 知是院 日精 嘉治三年

六休 智那院 日道 寬文十二年 六休 妙一院 日道 貞享四年

七休 白毫院 日道 元祿六年 八休 本地院 日言 元祿十三年

九休 心是院 日隨 寶永二年 十休 去原院 日誠 享保十六年

十一休 竜雄院 日弘 享保十六年 十二休 池底院 日急 延享三年

當寺塔頭

一 兼院 嘉治三年二休日周休建

本光院 寬文三年日休日精休建

大兼院 延寶六年六休日道休建

成就坊 元祿元年六休日道休建

達公院 享保六年九休日隨休建

唯香坊 同七年日隨困后不建

久松院 去光院 坊跡破壞

唐僧開場 禪宗源海派

東明山真福寺

元和六年庚申年建

境内五十九日坪

伊良林郷内

尚寺開創し奉り元和六年唐僧玄圓尚書小僧来りこ
 年の名今の自福寺境内小庵宇を結ひ住居をりを以邪宗門
 創禁嚴厲をりし時節日本渡海唐人の円天を耶蘇教切支丹結教を志混
 へ奉るの内風聞より渡りて南京方の船を相候し唐船入津の元初天
 之教を信せりて吾ののを禁りて實數を返し且海上彼来平安の祈
 祝又ハ先七菩薩提提表の爲右玄圓を用基の住持をりて禅院を創
 建成り後自唐中河下相候りて不允許をりて東明山自福寺を用
 創し茲船を市施奉進縁段及び香花料をを呈し佛殿を船神
 媽祖堂を造立し毎船持渡り祝の以神の像を二所をりて小持来りて住持を
 圓を始中へ住僧を立て唐香油可通吐候唐中一肝要の爲候り此
 所之市中る南京寺と稱也

一 寛永九年唐僧如定渡海を是を中二代、住持せりて正保元年同流
 然渡海を是を中二代の住持をりて年々流船を化縁を以て法堂塔伽藍山
 門等全く造営成就をり

一 毎年二月九三日船神天后の祭祀を在津の唐人を出候りて當寺小
 系後礼許をりて免る

祖以後福海寺崇福寺創建をりて之寺も同様と成り毎年二月七月
 九月七日毎梅菴に媽祖祭をりて在津の唐人系後を成也

一 寛永十七庚辰年九月尚寺、鐘一口鑄造をり

一 兼徳元年爲 上之右首足利家の例に準じ城別字治、唐寺一基開
 創をりて道徳優長の名蹟を可法語傳を所傳也、當寺住持遠然大

船を造りて唐國純心寺費源和尚の法嗣源元和尚を請りし日本
禅法再興を命ずる二年の事一區疾唐國の白ひ三百礼済し古石を諸
を造りて唐國せしむるの事及し此を懇請し感し許諾する兼
三年源元和尚當表小來朝の僧徒二十人随侍する當与小安返り
之時日本地へ地既願學の僧三百余員相集り祝國開堂祝法
執行すし別源元禪師を當与中興開山と爲す稱する

一 明曆元年宇治郡大和オホワタの地禪刹一基創建して黄檗山并福と
稱し源元和尚開山初祖と崇敬せし僧徒二十人在小屯山を以て同十人
後年源元和尚の随侍する同十人の翌三年唐より

一 後年八世悦菴世旭如十二世果堂十三世妙庵各當りて黄檗山純
心寺を以て後純心寺と稱す

一 妙意圖享保七年當り六代果堂代表源元和尚の塑像を安置し開山堂と
稱す

一 享保十一年為 上毛宇治黄檗山源元嫡流の石塔を可成拓請る唐國之處
書翰を令相返れ船を柙系職望十二年福州府并福寺仲祺和尚可成
來返輸持來り仍同十二年金可成後海を再輸聘儀令來り

但同年仲祺來朝爲用と當り内寮合教を和道と爲す

一 同十二年船を尹公宣杭州府福嚴寺明遇法師乘船和尙可成來返輸
持來り仍同年以方々再輸法相渡せ去未六月仲祺返輸持來り
當申二月渡船返輸持來り同敷月後を以て故渡船拓請りし後年所治及
池に源元仲祺の七十余歳の中若くも可成之小舟不汰檢正板一を以て
旨証拓請り

但三所の内重臨寺ハ華嚴流の在り

一 同十二年入洋の船風流小去年仲祺信流小普院山川口述連也
 改役人搜サリ一少し柯多撤八入軍信流八本山合内り中翌十五年鄭恒鳴信
 来り仲祺ハ先達る遷化の中外の信流可後力物許を慕りし中同十六年魏
 弘丹仲祺渡海のの官府表相海小付信流自宅小表ハ重の中又同年
 鄭恒鳴後來り仲祺遷化のの實流の中申し出信ハ法運信食流ハ礼也近
 教人の唐人自分の利欲を貪り種々物計を巧し中令嘉政小付柯多撤魏弘
 丹後海禁制法信付也の廢亡をり

一 享保二十年十月沈香村渡船返輸の中折来より仍る控入るハ改役
 渡船徳義を慕ハ聘信ハ礼儀丁寧有りし小女も穉宜徳退の文言ハ
 せしそ月後海ハ信ハるハるハるの新費入用有る大港の信牌名餘計の
 利分を可法とて刻に府言とる小人柄三相復の中信用し

難一といハ返輸とある故信牌ハ相与高し若鉄船少てせし信流
 来り小折也ハ即刻返返一信牌可法没収を信流され夫より八年を
 経て寛保二年渡船奉も相滞の中信牌返上とる是又年来
 唐人在此返信計一て実義せし故返小減却とる

開基 去圓 元和六年後來
 在元十三年 二代如定 寛永九年後來
 在元十年

三代 逸然 正保元年後來
 在元八年

中興 山源 元和尚 兼應三年後來明曆元年改別
 宇治の地、其嶺山開創功祖と云

唐國より随侍の僧二十人渡来を内大眉獨言獨知獨徳獨吼獨立良法惟一
 恒信を上右十人ハ始終後年述隨信とる良徳良靜獨痴誠若宗範惟聰
 惟端元福古石良哉右十人ハ翌三年海をり

二代 院一 明曆元年後來
 在元二十六年 心敏 延寶六年後來
 延寶六年後來招信を水小知
 慧雲 延寶六年後來招信を信小知

三伏 悦庵

貞享三年後末元禄三年不在元十八年

四伏 雷音

元禄六年後末寛永八年不在元三年

五伏 旭如

正徳元年後末在元七年享保二年

六伏 果堂

享保六年後末在元一年同七年

七伏 竺庵

享保八年後末在元十二年同十九年

和信 大倫

享保十九年の監寺

和信 隈堂

享保二年の監寺

和信 志通

享保七年の監寺

當寺末庵

東廬庵

寛永二十年二伏如定伏建

本寺内

桃林庵

寛安三年二伏逸然伏建

寺門前

永貞院

延寶二年中具二伏院一伏建

右内

永福庵

貞享三年同伏建

本寺内

資福庵

元禄七年中具三伏院等伏建

右内

圓通庵

淨良林

希運庵

中川

淨土宗

當地大音寺末寺

三佛山法泉寺

元和七年同年建

境内

下流後町之内

當寺因甚信譽ハ大音寺傳譽上人の弟子と上人證識院法の
場、於て邪說の輩種々障礙をなすことハ以信譽始終附依羽翼
と爲て彼を逐て逐て正法の胎を成す事多ク成し大音寺と

從遠近所新末古を建て普く徳人を教導するに
 能く此所法泉古を建て末古より之れを佛法自陸の志能を教
 能く

- | | | | | | |
|----|----|----------------------------|----|----|----------------------------|
| 開基 | 信登 | 元和七年 <small>在位十四年</small> | 二代 | 雄登 | 寛永十一年 <small>在位十八年</small> |
| 三代 | 忽登 | 寛永十二年 <small>在位十一年</small> | 四代 | 飲登 | 寛文元年 <small>在位十八年</small> |
| 五代 | 卓登 | 延寶六年 <small>在位七年</small> | 六代 | 十登 | 貞享元年 <small>在位十二年</small> |
| 七代 | 法登 | 元禄九年 <small>在位三十年</small> | 八代 | 廓登 | 享保十年 <small>在位十年</small> |
| 九代 | 等登 | 享保二十年 <small>在位十年</small> | 十代 | 梁登 | 延享元年 <small>在位十年</small> |

長言宗法相宗無常
 忽本与南都自福与
 京都清水寺末古

長崎山清水寺

元和九年 亥年 建

境内云子日百七十二坪中

高野平に在り

當寺開基空順、坂州八幡出生の僧なる子、觀音像を背負て
 法園を行脚し當處に來し、小を以て後にも邪宗への餘教絶せりし、小空順言
 言の御心を謙説し、大意大悲の誓願を示し教ふる、小邪心を翻して正しく
 胸腹に志甚多し、以首信奉行、長谷川氏園及、是一と建立あり、此地
 形を多し、小を以て後にも、小徳村、小高富と、小名、東方當て、清水、
 光氣と、一を不思、小の身、小葺の中、身、大石、福氣あり、
 盛り、是處地あり、して、長谷川氏、能く、小今の地、地、門、地、遺言し
 子の像を安置せり、此の處、石、福光石と名付て、今、於て、与中の、
 二、代、亮、願、顯、宗、の、聖、教、通、曉、せ、と、云、の、云、の、云、
 以、代、小、清、信、と、名、爲、修、學、京、都、登、一、小

武承の通夢小但七多に在備小海来一ふを以在津乃唐人何北晋と云云本堂
破壊及一凡其具の志願を記し創費成を在捨して逆當培造當成就を實文
八年當後之石碑を重て之重造の緣由を記せり

一 寛永十九年三月當寺種一口号附を跡工系於之條卷元經覽と云云在次

一 天満宮社 一 稻荷社 一 岸上之二十二和觀也卷の石像也

奥の院

一 宝曆九年十月朔日同日也長賢十弟校の護摩供勤行也

一 大師堂 寶曆十年辰年十月建

一 大門額 同十一年唐人王履階政寄附

開基 長賢

元和九年
在元三十四年

二代 亮愿

明曆二年
在元九十八年

三代 實業

天和三年
在元三十六年

四代 瑞桂比丘

享保三年
在元九年

五代 長賢

享保十一年
在元十七年

六代 洞賢

享保二年
在元三年

長賢再建 延享三年

淨土宗 京都智恩院末寺

美年山之末寺

元和九年 亥年建

境内 二子二百六十三坪

伊良林 同

當寺開基持譽上人慈光大師佛の河弥陀佛と背負當地來り
只今の地小庵を造り安置し小堂に於て授受邪宗の除却絶つし上人破邪
顯心の流法を傳へ海去法門小師教を以て教多小成を以て此の法事行
長谷川氏國及一寺と令創建免許を以て仍白京都智恩院也也

相形ひし小山号と号号を授らる利智恩院未とくく号と開創をり

一 元禄乙未申年九月号と鐘一口鑄造をり

開基 持譽 元和九年在位十一年 二代 法譽 寛永十年在位十四年

三 代 高譽 正保四年在位十六年 四 代 深譽 寛文二年在位十八年

五 代 辰譽 延享八年在位九年 六 代 高譽 元禄二年在位三十七年

七 代 稱譽 享保十一年在位十二年 八 代 相譽 延享四年

降古宗 唐津降恭と末寺

東雲山降安と 寛永元甲子年遷 伊良林と日

境内子二百十六坪二分あり 伊良林と日

當寺開基持譽上人元和の比より此地に小庵を結ひ聖徳太子治化の業
師如來を安置せり寛永元年市中程又邪説の餘氣を絶せり故に
念佛の功にて心引接を以て信者漸行而る免許あり同年山号と
号院号号を授り當寺開創して考り信人を教導す法を勤行せり
一 元禄乙未申年四月号と鐘一口鑄造をり

開基 持譽 寛永元年在位二十六年 二代 英譽 享保三年在位九年

三 代 然譽 延享八年在位九年 四 代 授譽 元禄十二年在位一年

五 代 持譽 元禄十四年在位十年 六 代 学譽 正徳元年在位二年

七 代 心譽 正徳三年在位十二年 八 代 稟譽 享保十年在位十九年

九 代 澤譽 延享二年在位四年 十 代 降譽 寛延二年

天台宗 江戸東叡山末寺

冥樹山現慶寺 寛永二丙寅年建

境内千二百九十口坪 高野平山

當寺開基高亮院ハ肥前依能出生の先達山伏の本山當山の
惣頭中政を相勤寛永二年今菟町内ニ祇園社を築成ニテ同十二
年高野平村の内今力地を治り移建セリ

一 二代親了坊盛宿法僧と惣頭中政を併置官南亮院小鎮也

一 三代正光院玄院去正保二年安禪寺を開創ニテ後寛文元年當寺ニ
代の領持と當寺より安禪寺を兼帯セリ

一 四代右祥院寛院江戸東叡山也リ依能山号与長院号を治り東叡山
末寺とシテ國家安全當下御業榮の徳ヲ禱せ給て抽丹誠名法僧

書頂戴在 宮様 侍書 洋紙 法印付

彦山権現 神明宮 天満宮 稻荷社 弁才天祠

一 元禄十二壬午年七月廿二日當寺の御禮當社子園子の祭礼おぼしめ九氣八日香
相勤の礼を度三月七日八月十八日迄相勤市中恩病為退教神輿巡廻
一 享保十己酉年正月當寺鐘一口鑄造

開基 傳驗 高亮院 寛永三年
二代 親了坊 盛宿 寛安二年

三代 正光院 玄院 寛文元年
四代 右祥院 寛院 寛文七年

五代 常果院 宗海 貞享三年
六代 右祥院再興 元禄八年

七代 常雄 元禄十一年
八代 隆昌 寛永七年

九代 隆院 寛永八年
十代 芝貞 享保八年

十一代 貞雄 享保十九年

降古宗法西本山 瓶后普尊寺末与

天王山聖徳与

寛永二丙寅年建

境内子二百六十坪

鳥辺郷内

普尊寺用基与普尊、瓶后普尊寺法中、山里村剛村の辺に法教
此有古村の古地与名西依信胎し西に父祖普提而を古能く丹免許与
普尊寺与本山号与号院号と授り普尊寺用創与

称名院

此と為原后所建

持取院

寛文年中二代一普院建

无量院

右同代建

一 享保十三戊申年二月普与鐘一口珍造与

用基

与普

寛永三年
在元九年

二代

法普

正保二年
在元十七年

二代

一普

寛文九年
在元九年

三代

積普

延寶八年
在元十七年

五代

称普

貞享二年
在元七年

六代

方普

寛永九年
在元十一年

七代

教普

正徳四年
在元十九年

八代

棟普

享保十七年
在元十六年

九代

啓普

貞享三年
在元七年

十代

延普

貞享二年

一向宗

京都西本願寺末与

白南山観音与

寛永三丙寅年建

境内二百六十二坪

岩原内

普尊寺用基降念ハ瓶后山中と名高光甚大由と云云
濟小来り出家と遊け一寺建立の念能あり京師東本願寺小
相能く此別免許与寛永三年普与用創与一此と地取直と云

故寛文十一年今の地ニ引移せり

一 寛永二乙酉年五月當寺鐘一口鑄造

一 昔古開基以来東本願寺末流なりし小京保七年七代法音
在任の時故より因本願寺の末とす

開基 淨念 寛永三年乙酉 在任十七年 二代 淨玄 寛永十九年乙酉 在任四年

三代 淨信 正保二年乙酉 在任四年 四代 淨秀 享安元年乙酉 在任三十二年

五代 月擔 天和二年乙酉 在任十二年 六代 月秀 元禄六年乙酉 在任七年

七代 法音 元禄十二年乙酉 在任三十四年 八代 淨忠 享保十七年乙酉 在任七一年

九代 聖尊 享保三年乙酉

長言宗 京師佛室仁和寺末とす

龍尾畠山法界觀性寺 寛永三丙寅年建

境内六百六十八坪也 岩原山之内

昔寺開基省道言聖山ノ此地小東ノ小治奉行乃聖良當地安
全の祈願所一与合建之夜申志願有ノ小省乃以之を能成
系那仁和寺小堂山ノ右の飯田に於テ小別願之を免許あり山号与
早文愛王院と号し院家職淨名院兼帯を免之九當寺門
創せり

一 鎮守天満宮齋藤氏ノ也寛永十五午治奉行馬場氏再具造
當寺

觀音堂 護摩堂 稻荷社

開基 省道 寛永二年乙酉 在任三十八年 二代 杖玄 寛文四年乙酉 在任十四年

三伏

法源

延寶六年在延寶十六年

四伏

兼竜

元禄六年在延寶十九年

五伏

智蔵

正徳九年在延寶三年

竜瑞坊

正徳三年在延寶十二年

六伏

瓊阿

享保九年在延寶九年

七伏

貞道

享保三年在延寶八年

八伏

省亨

寛延三年

第六卷目錄

寺院開創部下

禪宗

福海寺

寛永八戊辰年建

同宗

崇福寺

同六己巳年建

同宗

玄徳寺

同七庚午年建

法苑宗

長照寺

同八辛未年建

淨土宗

竜淵寺

同年建

一向宗

西勝寺

同九壬申年建

天台宗

兼福寺

同十甲戌年建

一向宗

光源寺

同十一乙丑年建

天台宗

長福寺

寛永十八己巳年建

同宗 願成寺

同二十癸未年建

同宗 聖之勤寺

正保元甲申年建

禪宗 禪林寺

同年建

同宗 德苑寺

同年建

長言宗 吉光寺

同二乙酉年建

天台宗 安禪寺

同年建

禪宗 永昌寺

同二丙戌年建

同宗 高林寺

同年建

同宗 光雲寺

同年建

長言宗 德江寺

同丁亥年建

同宗 圓福寺

同安元戊子年建

禪宗 雲鏡寺

同嘉二癸巳年建

同宗 聖福寺

同安五丁巳年建

同宗 妙相寺

同七己未年建

長言宗 大徳寺

同元禄十六癸未年建

禪宗 大光寺

同安永元甲申年建

同宗 大平寺

同寛延三庚午年建

長崎実録大成中六卷

寺院開創之部下

田色八右衛門茂啓編輯

唐僧開場

禪宗條海峽

分次東山福海寺

寛永六年辰年建

號曰三子十坪

岩永口と曰

當寺開創の寛永六年唐僧光海當表。後來れりて障州チヤウチウ方の船を
 光相候し唐船入陣の光初、天主教を信せりて言のゆを築キジし、實數を
 遂げ且海上往來平安の祈能又ハ先亡菩薩提表の爲を以薩州小居候せし
 唐人陳冲一日子友九崎の檀越の改れりて光海を住持とす禪院を創建成し
 改名去り元和六年南宮方自福と建始とす例準し法華行取相能ふの如
 免許を分次東山福海寺を開創し法船を布施をを縁限及び香花料を
 是より弘慶院船神媽祖堂を造立し每船持渡す所の弘神の像を亦与内ニ持
 來り住持光海を始と中ニ役僧を立置委細ニ遊味を亦一肝胃の奉役法儀

之市中チヤウチウ障州寺と稱す

一 同享唐僧了然光意為人光海、遊法して後海せし、光海退去以後光意を監
 寺とす、十三年

一 毎年三月七日船神天后の祭祀あり、後唐之ときも福壽、三月七月九月七日毎小
 在津の唐人光出候して系後礼許とす、のを免ふ。

一 正保丁亥年九月當寺障一と稱遊とす

一 寛安二年唐僧蘊德後海を是と重興開山と稱し、在任七年十一月、桑運右建港を

一 去り養意年中有、上意障州守治郡、黄檗山を創建する、光元和尚開山初祖と

一 成之後去り唐三々も、内学行住義、魚肉の僧を可令絶席名法候付し
 仍り明暦元年後海を本庵和尚、治二年折別普門とす、入寛文元年

一 黄檗山、中り中二世の絶席とす、以後黄檗山絶席とす、の略

一 慈岳和尚明曆元年本庵、随侍して渡海を當り二代の住持となりし時天和元年
 長崎表二回年以來米穀拂底少く市中甚飢饉及し此慈岳和尚住持を托御
 出し同月十七日夕施粥あり一日凡三子人及より數十日のゆる米穀相續あり
 公儀分米六百石を實領の事當り相成候に施粥あり
 一 寛永二年二月朔日夜當り内治室一軒失火
 一 寛曆六年十月二日夜当り内并々天雲一宇失火

開基 光海 寛永五年後米
在任十年 了然 同年隨月後米
監寺十三年
 重貞 用山 龜像 天安二年後米法伽藍造當
在任九回年桑蓮后退隱
 木庵 明曆元年後米桑蓮三年松州普門寺入
寛文十二年分當り在任十八年
 二代 慈岳 明曆元年後米桑蓮本庵隨侍して其願、也山
寛文十二年分當り在任十八年

一 崧山 明曆三年後米桑蓮本庵隨侍して
寛永三年黃檗山中七世住持となり
 二代 東圃 延享元年後米元禄二年分在任七年
寛永三年唱浪元禄再任
 三代 唱浪 元禄七年後米同八年分
在任十二年 和信 克信 寛永十二年分
監寺
 四代 楊文 元禄六年後米寛永六年分在任六年
享保六年黃檗山第十一世住持となり
 五代 全巖 寛永七年後米心庵六年分
在任十年桑蓮后退隱也
 七代 大嶋 享保七年後米同九年分在任十二年
延享元年黃檗山第十六世住持となり 和信 活宗 寛曆十三年分
監寺
 和信 廓堂 延享二年分
監寺

當古末庵

桑蓮后 寛文十二年重貞用山龜像代建 女夫川村内
 永聖院 延享三年二代慈岳代建 本寺内

光明庵

同日年月代建

稻沃村内

奥住庵

天和元年同代建

本寺内

垂磐庵

元禄七年同代建

本寺内

紫雲庵

寛保三年七代大鵬代建

本寺内

大慈庵

法源庵

松林庵

松涛庵

唐僧用場

禅宗源流

聖壽山宗福寺

寛永六己巳年建

境内七子口百三十口坪

高野平口内

當寺用創ナウの寛永六年唐僧超然當表、後來れりを以福

洲ナウ方の船を相誘ナウ去り元和六年南京方、奥福寺寛永六年障

別所、福海寺同創を一例小準し唐船入津の元初、天主教を信せ

る者の中、紫ナウく穿敷を遂且海上往來平安の祈願又、先亡善提供表為

林に法勝檀首ナウ右の超然を信持して禪院を創建成、後名法東行、不ナウお能

く礼免許をて聖壽山宗福寺を同創し法船を本施寄を縁根及び香花料を

を以し弘教花の船神媽祖堂を造立し毎船指渡の船神の像を本寺内持來

し、の信持超然を始と中、後僧を立垂秀細可遂吐味在中、一所ののち假法

治世、但市中ホクテウテラ福洲と稱す

一 毎年三月廿二日船神天后の祭祀なるに唐二ヶ寺輪番、三月七月九月廿二

日、在津の唐人在出館して奉儀礼拜せしむるを免す

一 正保に丁亥年八月當と稱一口請造り

一 明暦三年即非和尚後海を創設元和尚の法嗣なる及他号解地を領し石僧
取及當と中興開山と号稱を寛文三年黄檗山とせり同日年公所と稱來り
時を承小倉城之小笠原家厚く信託して彼地を於る廣壽山福聚寺と
開基と之法曰年小して寛文八年長崎、由來と

一 天和元年當と中興二伏千駄和尚と中の僧徒を集めて近年風俗
繪師依人困窮の中興及りて先づ自分の什物賣賣盡蕪衣履等賣出し
和尚自り市中、鉢を勧め當年九月十六日寺中なる施粥を三年を越て
後風俗甚し仍る天和二年二子人となる彼の粥を炊く大釜一口請造りし釜の言サ
六尺八寸徑六尺八寸重サ九百六十斤釜の額より重壽山福聚寺と施粥
巨獨天和二年之伏仲表望後の字も當との遺物

一 去々兼寛年と と言城州宇治郡、黄檗山を創建を源元和尚開山初祖と成

と後長所唐二子との内々学行徳義兼備の僧を撰りて合衆席を法御付と仍る
萬治三年後海を千駄和尚元禄八年黄檗山とせり才六世の純席とあり
後黄檗山純席ののり

一 當寺山門、唐國到化と彼方の二通より彫鑿して組合せ當と於て造るを施
自年教を分明と

一 元文元年唐船自林達升九品海衣國總の屏風を奉附と是を十六観圖展と
稱しり毎年涅槃會盂蘭盆會等の節法人、開見と

開基 超然 寛永六年後末
在後十六年

普定 寛永十六年後末監寺
二年明暦元年の唐

二伏 百拙 正保三年後末
在後四年

海達 正保三年後末監寺
二年明暦元年の唐

二代 道者

安永四年後末在任八年
嘉永元年由唐

中興開山即非

明曆三年後末當与高田法
寛文三年實摩山之中り同日年

小倉小笠原家分傳坊主千廣壽山福取取与開創在任之法
曰年寛文八年長崎之由任也

二代 千歌

嘉永三年後末在任六年元禄八年
實摩山中六世絶座

玉園

延寶二年後末監与十九年

雲堂

延寶二年後末松任
任与松山

龜原

元禄六年後末寛保九年
實摩山中九世絶座

三代 大衛

元禄六年後末
在任十七年

四代 別光

寛永六年後末
在任一年

五代 義勝

寛永六年後末
在任六年

六代 道本

寛保四年後末
在任六年

七代 伯珣

寛保七年後末
在任七年

和僧 三克明

寛延二年
監寺

當寺末庵

廣福庵

寛文八年二代千歌代建

本寺日

廣若庵

同年月代建

日

廣純院

延寶五年同日代建

日

福樹林

貞享二年同日代建

西山村日

竹林院

同三年同日代建

本寺日

清涼庵

元禄元年同日代建

日

大悲庵

同六年龜原建

西山村日

銀羅庵

同八年二代大衛代建

本寺日

書源院

同十一年同日代建

片岡村日

墨華院

同十二年同日代建

言智平村日

極樂庵

同十三年同代建

高野平村内

橋雲庵

寛永二年同代建

中川村内

上谷庵

享保九年同代建

寶板庵

同十六年七代伯陶代建

中川村内

禪宗五山派

京都建仁寺末寺

華嶽山表地寺

寛永七年建

境内云千六百九十六坪

夫婦川口内

當寺開基恭定八系故建仁寺先師三印弟子寛永七年岩原村内

一寺開創寺名寺地甚狭隘寺後同九年檀越末次茂貞換地今

地當年成至長崎氏居後寺一帯地を九寺に當り移建たり

一境内唐醫陳明徳傳あり安東省庵撰之

一寛安二庚寅年七月當り鐘一口鑄造あり

一同年十月十七日信來行山崎氏於長崎卒去を法号節功玄忠居士と稱す

一 天陽宮社

一 山上唐通の東海氏徐敬雲墳墓を牆壁の間、花舟の彫鑿を石道

尤を巧ををたり

一 貞享二年三月十八日當り本堂に火を食る宮殿庫裏と中より

焼失す

一 慈經一部七卷小庵を鑱板を某寺附す

一 後山城跡を云傳し嚴岨あり

開基

泰室

寛永七年分
在元二年

二代 欽胤

寛永二年分
在元二年

三代

心傳

寛永四年分
在元十六年

四代 唱門

寛文六年分
在元二年

五代

桃悟

寛文八年分
在元十二年

六代 月岑

延享八年分
在元十七年

七代

天養

元禄九年分
在元六年

八代 芳江

元禄十四年分
在元十七年

九代

法洲

享保十二年分
在元十七年

洞天

享保四年分
監住

法花宗

当地本蓮寺末寺

光榮山長照寺

寛永八年分末寺建

境内に子七百七十五坪

伊良林に三月

當寺開基本通院日午八本蓮寺日慧聖人の弟子に以て地ハ柳屋に云

傍に發成しを業成除入云云を讓て更日慧聖人と相説し當寺を建末寺とし

當表法花檀家を二つ分ケ川筋の西を本蓮寺檀家とし東を長照寺檀

家とせんとの事極色を以ての事以後より東西の分ちより移く有來の檀家

一 延喜日丙辰年十月當寺鐘一口鑄造る

一 十二代日中の時永代聖人地とす

一 圓宗坊開基日崇代建後稱大道院

一 仙壽坊永七代日成代建

一 久木院

一 七面山

一 享保十六年十月十一日道代門内首領塔建

開基

本通院

日崇

寛永八年分
在元十六年

二代

本通院

日融

明暦三年分
在元十七年

三代 聖徳院 日理

延喜二年ノ
在位四年

四代 聖徳院 日實

延喜六年ノ
在位七年

名僧貞享二年ノ日三年ノ

五代 承徳 日理

貞享四年ノ
在位二年

六代 光孝院 日理

元禄二年ノ
在位六年

七代 光孝院 日成

元禄八年ノ
在位七年

八代 行明院 日理

元禄十六年ノ
在位七年

九代 唯徳院 日理

寛永六年ノ
在位八年

十代 蓮成院 日秀

享保二年ノ
在位十年

十一代 本三院 日道

享保十二年ノ
在位十三年

十二代 大右院 日中

元文六年ノ
在位十三年

十三代 日明

寶曆二年ノ
在位九年

十四代 寶成院 日教

寶曆十一年ノ
在位二年

十五代

降古宗西山院 系部教言院寺末与

天臺山竜淵与

寛永八年未年終

境内三百八坪八合口白

伊豫町と白

當寺開基教言上人一与開創一曰天山云光与と号也院。當寺縁
地与實永正徳の比、あり當塔悉く破壊一与海に遷轉其一の地六代蓮成院
月長老七代天臺竜淵上人説法教示懇切有り故其の種元教言信公
海流の名實材を号をて遷、當塔再興するに時山号と号を改て天臺
山竜淵とと稱也

一 享保十三年己酉年正月當寺鐘一口鑄造

開基 教言

寛永八年ノ
在位十四年

二代 信光

延喜三年ノ
在位九年

三代 白準

元禄十二年ノ
在位九年

四代 信景

寛永四年ノ
在位七年

五代 思玄

正徳三年ノ
在位九年

六代 権月

享保六年ノ
在位八年

七代 竜淵

享保十年ノ
在位二年

八代 若伸

享保十二年ノ
在位十三年

九代 卓立 元文三年
在任二年

十代 芳明 元文四年
在任六年

十一代 実中 延享二年

一向宗 京都西本願寺末寺

瑞雲山西勝寺 寛永九壬申年建

境内二百二十六坪 東中町

當寺同基宇讚親齋重人云年六字名號を保持して多年を信じて
法人は圓孔洋茶致を以て志教を以て創建を以て勅し故系終
由本願寺古形への流儀を以て山号と号と授けを末寺と成り當寺同創と

一 當寺境内瑞雲寺に但願字堂を以て建立の年月施を未だ知れず

同基 宇讚 寛永九年
在任十七年 二代 松清 安永元年
在任十七年

二代 松尾 寛文四年
在任十一年 三代 了玄 延享八年
在任三十八年

三代 智巖 享保二年
在任三十二年 六代 大素 寛延二年

去言宗 當地延命寺末寺

寶珠山芳福寺 寛永十甲戌年建

境内七子六百二十六坪 竹久保町

當寺の延命寺の同基竟宣法平稻流村の内、一寺創建して毎々天
社を勧請し延命寺の末寺と成り毎年八月七日并々天祭礼を

一 正徳元 享和年六月當寺境内瑞雲寺

并々天本社 惠英酒社 稻流社 聖天堂 虚空蔵社

用基 竜宣

寛永十一年
延命与尊常

二代 竜盛

万治九年
在治九三年

三代 快言

延宝八年
在治九一年

四代 光岩

元禄十三年
在治十七年

五代 鳳雄

享保元年
在治九一年

六代 清雄

元文元年
在治三年

七代 普雄

元文三年
在治十年

八代 省雄

延享四年
在治三年

九代 收雄

寛延二年

一向宗 京都西本願寺末寺

山魏 山光源寺

寛永十日丁丑年建

境目六百九十二坪七分六厘

淨良林以之目

當与用基松吟(瓶屋柳川の僧當表)能言說法教化其由依の志

甚多し仍言治事行馬場氏一寺創建在(元禄元年)其本國之瑞

柳川の光源寺(中)不譲り京都中願寺(相形)末与(山)を授り

元の与号(与當)与用創也り

一 寛文六年二月十七日(本願寺)行福生七而右(長崎)長崎年去

法号孝山淨忠大居士當与茶毘あり

一 延寶四年(元禄)元の与地根(長崎)河野統(長崎)今(長崎)地(長崎)与を移也り

一 元禄十二年(元禄)六月當与(長崎)一(長崎)造也り

用基 松吟

寛永十四年
在治九一年

二代 景田

寛文元年
在治十八年

松吟 再治也年

二代 光岩

天和三年
在治八年

四代 一原

元禄四年
在治二年

六代 西村

元禄六年
在治十八年

六代 頼瓊

寛延三年
在治七年

七代 執事

寶曆七年

長言宗 肥前忠實山天智院末与

實壽山長福寺文珠院 寛永十八年己未春

境内九百七十一坪口合八分 与聖平以自

當与宛初今菴町自草創至今宛寛永十八年收与与聖平村自
今の地引移り但肥前忠實山の末与与成之住持官職色取ふの能ハ
扱本与京都大光寺の宮より免許有之

天満宮社 舟支天堂 稻荷社 聖天堂

用基 收与 寛永十八年
在任十年 二代 光看 寛安二年
在任十年

二代 英範 嘉治二年
在任十年 三代 光典 寛文九年
在任十年

三代 曉遍 延寶七年
在任七年 四代 光雅 元禄十年
在任九年

七代 長隆 寛永二年
在任三十年 八代 泰運 元文元年
在任四年

九代 寛隆 元文元年
在任二年 十代 義孝 元文六年

長言宗 京都御室仁和寺末与

聖宿山能成寺 寛永二十 癸未年春

境内七百七十七坪 与聖平以自

右自七百七十六坪ハ清水寺境と有之与居場より上宮連の片筋横一間余は七百九回并
堀籠取場也

沙六子六百六十一坪 社地境内山林畑地

當寺用基宿交系部信家と也山し一与建立右能ハ能ハ与免許
有之聖宿山能成寺を用創し仁和寺末与と成上宮 宛定て聖宿大控
現ハ火防の守護神軍神と長崎惣所安全の供祈修て抽丹殿を境地

七子三百坪治免除乃治墨付所下重治老中治海状云々

一 二代免宥在任の時中山院跡兼常海光院治免乃院家地云々

一 元禄十七甲申年當古境一日跡造云々

一 用基 宥英

寛永九年分
在任十六年

二代 宥貞

享保元年分
在任二年

二代 免宥

享保二年分
在任三十一年

三代 免英

元禄四年分
在任八年

三代 義雄

元禄十年分
在任八年

四代 俊雄

寛永二年分
在任三十七年

七代 俊英

延享二年分

三言宗

系於御室仁和寺末子

實盤山重不動寺

正保元甲申年建

境内四百三十二坪七合七勺

岩原口

當寺用基利生院寺音一寺創し不動明王を尊信し在任十六年後

二代宥昌系於仁和寺相承末子とあり寺号を重不動寺と改め二代免英

上系の時院家兼常海光院跡を授けらる

天満宮社

復興堂

直英酒堂

一 用基 寺音

正保元年分
在任十二年

二代 宥昌

享保元年分
在任十年

三代 免賢

寛文元年分
在任三年

四代 増貞

元禄六年分
在任十七年

五代 俊嚴

寛永六年分
在任十七年

六代 俊元

享保十年分
在任十九年

七代 宥貞

寛曆二年分

禅宗円山派

京都妙正寺末寺

河東山禅林寺

正保元甲申年建

境内百七十二坪

河内林口内

昔与同基石屋ハ特誠多クの信者所ナリ書籍吟味の
付之功ありて以て一寺令創建ス但此地ハ類川友系別業成ニ寄送
スル仍昔与同創シ京都妙正寺末寺ニシテ友系出家を遊ケ獨
健ニ稱ス

一 安永三年東京船自魏統頑石壇在捨ニ殆あり

一 安永二乙酉年十月昔与同障一口勝造ニ

天満宮社 地蔵堂 安永二年建 延享二年再興

同基 石屋

正保元年
在延十四年

二代 三虎

正保元年
在延十四年

三代 定海

寛文十一年
在延十六年

四代 大震

貞享二年
在延二十一年

五代 唱山

安永三年
在延六年

六代 玄密

正徳元年
在延八年

七代 仁山

享保三年
在延八年

八代 抱州

享保十年
在延六年

九代 東巖

享保十六年
在延十六年

十代 虎堂

延享二年
在延六年

十一代 恭州

享保元年

禅宗円山派

京都妙正寺末寺

真地山徳苑寺

正保元甲申年建

境内百十三坪

八幡町内

昔与同基同教二代至孫ナリ徳苑寺ニシテ延享六年
常ニ云禅僧昔院の譲リト云京都妙正寺末寺ニシテ
延享六年ニ

中興開山者當与建堂之時の檀越林仁云来者ら助資より後出資を
逐指振と稱す

一 寺内、横六間長二十七間の放生池を中興、無量塔院の小祠を
地蔵堂 稻荷社 元禄九年 延享二年再興

開基 周教

正保九年
在延十六年

二代 吉取

享治二年
在延九年

三代 中興 三常

延享六年
在延十年

四代 鼎山

元禄九年
在延十一年

五代 敬山

元禄十六年
在延十六年

六代 竜天

享保元年
在延十九年

七代 泰州

延享元年
在延八年

祖源看坊 享曆元年

去言言 当地延命寺末寺

寶林山善光寺

正保二乙酉年

境内二百九十七坪

出来大工町

昔与(延命寺)の開基然宣法尔去言新義法流お傳をし法嗣
受順の開基より一寺創建し善向金剛を奉敬せり初延命寺の末
寺也

一 元禄九年門前石像の不動明王建

一 同十二年十月當与障一口漆造り

観音堂 聖天堂

開基 受順

正保二年
在延十六年

二代 龍野

寛文元年
在延三年

三代 龍観

寛文三年
在延二十三年

四代 光智

元禄六年
在延十四年

五代 龍陳

享保三年
在延十二年

六代 龍泉

享保三年
在延十六年

七代 元龜

享保十九年
在任九年

八代 玄稱

寶曆四年

天台宗

江戸東叡山東寺

雲岳山安禪寺

正保二年卒

境内二子七百二十日坪

西山

昔与田基玄徳法下正保二年此地草庵を結ひ居りし最龜元年に

戸東叡山せり長崎寺末寺法中と一山山号寺号院号法免許

有別東叡山東寺法法付之 東照宮法首親徳聖宗貞之字

之を以て編り文 大猷院殿の法称号宮権法深等と頂戴と法付之

寛文十三癸丑年二月當寺禪一口鑿造を

同年改元延宝元年法宮法龜臣二王門鐘橋安禪寺の寺堂

庫裏僧房法室念佛勤行ら

同六年高僧所統其の時長智氏以て級位を

天和元年二代玄海東叡山せり 嚴有院殿の法称号法つる

法深等と頂戴法 法付

貞享四年以後法在行所交代前當寺に引移る

元禄四年法初町の家一所買入門前の馬場加らる

同十二年新巻地の土神祠并々天大惠天社當寺に支那法法付唐

船より重銀未差出

正徳元年旧代宗雄東叡山せり 常憲院殿の法称号法つる

法深等と頂戴法 法付之 以後東叡山一室院 惣法法時興宗改

寶曆二年七代具宗東叡山せり 有徳院殿の法称号法つる

傳等と頂戴し給付し

開基 玄徳

正保二年八月
在任九年

二代 玄海

寛文七年八月
在任九年

元禄八年八月十六年迄
多聞院首始九年

三代 寛海

元禄十六年八月
在任九年

四代 貞榮

享保七年八月
在任九年

享保十五年八月十六年迄
在任九年

五代 宗徳

享保十六年八月
在任十二年

六代 宗海

元文元年八月
在任十二年

七代 貞定

延享四年八月
在任

普寺境内

常念仏堂多聞院正保年中豪徳と後戻町内小庵を造り安禪寺

東照宮古無名別當相勤の如延享元年安禪寺古普徳の時境内に

後常念仏堂を建てる古普徳常念仏令勤行らる

初代 豪徳

正保二年

二代 宗徳

享保七年

三代 宗海

元文元年

在任

四代 貞榮

延享四年

五代 宗徳

享保十六年

六代 宗海

元禄十六年

在任

禪宗曹洞派

当地昭憲寺末寺

瑞光山永昌寺

正保二内成年来

境内八百人許

岩原口と内

普寺、昭憲寺開基一庵和尚年来既法教此寺の法人を正法、
内殿より大功を乞はれ曹洞の宗風を著く世間、流布せしむるに念願の如く
祈願所、允許する正保三年末寺とて寺を創し、寺内一寺、永昌寺とて
別法嗣を撰ひ、泉益を二代の住持とす昭憲寺の末寺とす

正徳二壬辰年正月普寺と後一寺、瑞光寺とす

開基 一庭 正保三年
創建

二代 泉益 正保三年
在任九年

三代 愚門 寛文八年
在任十一年

四代 戒琛 延寶六年
在任三年

五代 義堂 延寶八年
在任九年

六代 洞禅 寶永四年
在任十六年

七代 丹林 享保七年
在任八年

洞禅再任 享保十四年
在任二年

八代 祥香 享保十六年
在任九年

九代 玉瑞 享保八年
在任九年

禅宗曹洞派

當地暗菴寺末寺

徳光山高林寺

正保二丙戌年建

境内百五十坪

西山一町

昔より暗菴寺開基一庭和尚年来既法教化有法人也正法の

股せり大切を急務と曹洞の宗派を普く世間流布せしむる念を以て此寺を創設す

允祥より正保三年末寺三ヶ寺を開創し境内一寺高林寺也 創法嗣を

撰ハ大案を二代の徳持より暗菴寺の末寺とす

一 享保十乙巳年竹苗寺隣一ヶ寺造り

福壽社 天満宮社 観音堂

開基 一庭 正保三年
創建

二代 天察 正保三年
在任九年

三代 全光 寛文八年
在任九年

四代 全超 元禄二年
在任二十三年

五代 古天 享保六年
在任六年

六代 鉄松 享保十年
在任十五年

七代 一枝 元文四年
在任七年

八代 愚谷 延享二年
在任四年

九代 徳山 寛延九年
在任三年

十代 又玄 寛延三年

禪宗曹洞派

当地暗基寺末寺

月桂山光雲寺

正保二丙戌年建

境内二百三坪

出栗大工町

當寺ハ暗基寺同基一庭和尚年来説法教化多ク後人を正法ニ
傳授せり大功を立修ク曹洞の宗派を普ク世間ニ流布せし一
行所也修一允許する正保三年末寺ニ寺を同創し其内一寺光雲寺是レ
同日年法嗣の内宗融と二代の住持なり暗基寺の末寺なり

一 寶曆乙亥年十月當寺と隣一白旗造り

同基一庭

正保三年
創建

二代 宗融

正保四年
在任八年

三代 見宗

明暦元年
在任七年

四代 碩外

寛文二年
在任十二年

五代 周存

延寶六年
在任五年

六代 素道

元禄十六年
在任三年

七代 膳眼

享保九年
在任十四年

八代 良英

寛延元年
在任六年

去言宗 当地延命寺末寺

梅檀山徳仁寺

正保丁亥年建

境内二百坪

西山

當寺同基長音梅丘所ニ草創し妙音院と稱し二代高亮西山村今
の地ニ移るる本寺ハ名跡ノ傳田又左末ノト云志遠羅國ニ渡海し帰
朝の時持来りし赤梅檀を彫刻し一釈迦如来を安置せり創梅檀山徳仁
寺と改号し延命寺と末寺と成り

每年十月玄松の節祭礼あり 境内 功德院

田基 長音 在保四年 二代 高亮 寛文二年

三代 忠誠 延享六年 四代 神賢 元禄元年

五代 雲松 元禄六年 六代 龍陳 在保三年

七代 和貞 延享四年

当地延命寺末子

白巖山圓福寺 延享元年 子年建

境内三子五百坪 里郷角

昔寺(延命寺)の田基 龍宜法乎山里村の月一子創建して山王権現社
勧修し延享元年分延享七年迄三十二年延命寺と兼帯し延享八年
法嗣光忠は二代の地持なり延命寺の末子とあり

一 享保元^丙申年八月當与禪一口跡造

田基 龍宜 延享元年 二代 光忠 延享八年

三代 智徳 元禄十六年 四代 祐性 宝永二年

五代 常雄 在保三年 六代 光徳 享保六年

七代 徳雄 享保九年 八代 徳誠 享保三年

禅宗本山 当地表徳寺末子

東洲山雲龍寺 兼魚二条 己年建

境内八百八十坪 馬場口

當与地(山長寺)末子と云ふ延命寺ありしを表徳寺末子三代の地持分持

附より仍舊舊寺の跡を以て此地に於て再興せり但此公傳ハ其地との開
 基泰定の法脈なる凡當寺創基施与末寺と成る

一 正徳六年申年八月當寺鐘鑄遊

- | | | | | |
|----|----|---------------|-------|---------------|
| 開基 | 公傳 | 兼徳二年
在位一年 | 二代 月岑 | 兼徳三年
在位一年 |
| 三代 | 仁甫 | 延享二年
在位十二年 | 四代 祖欽 | 貞享三年
在位三年 |
| 五代 | 祖圓 | 元禄元年
在位四年 | 六代 宗源 | 元禄四年
在位六年 |
| 七代 | 元割 | 元禄九年
在位十一年 | 七代 無名 | 寶永三年
在位十三年 |
| 八代 | 玉潭 | 享保四年
在位四年 | 八代 無名 | 享保七年
在位七年 |

禪宗陳海胤 城川定治 黄檗山末寺

黄檗山聖福寺

延享丁巳年

境内女子坪

岩原山

當寺開基道肝字ハ鉄公俗姓陳氏長崎出生の僧ハ唐僧本庵和尚從
 嗣法シ寛文元年本庵黄檗山中二代の爲徒席進山を以て時鉄公傳目と成り相
 傳りを履長崎、如く福海寺境内、小庵を據て居住せしが當寺、黄檗山
 の末寺一寺と開創可なり名免許を賜ふに以て地ハ元和九年創建を以て
 免院と云候驗表たれし小庵遷轉一々六十余年、成し香高跡成しを延享六年
 此地を以て鉄公一寺と開創し黄檗山聖福寺と稱し別鉄公開山と成る
 寶永元年延享二年宛持寺、如日二年江府、本振持寺、白金寺、瑞
 聖寺、乃佐持寺、成持寺、如日寺、在位し夫ハ遷源を相創て當寺聖福寺
 爲持せり

一 元禄元年當寺地内、龜尾敷十莖出立と法人を嘉瑞を流さる今當寺
計相

一 寶永六年唐津ヨブコノウラ呼子浦小十と云漁人海中へ長ク七日入り唐造りと
之し本仏一神流を号しを引揚る別故に古井家の件を流仏を長崎小
送來し仍る唐人を凡そしを在分明に知能難し以是に府書上をを財部
當寺用山溪公在江戸と云社信奉行、是れ念を右の流仏重福寺
内、引更可令安置を詔依付

一 當寺障一は元禄七年六月誘遊を其鏡鏡小ありし元享保二年十月
能自より再ハ大長クの時、誘遊を

一 享保十九年唐船自中海上傳來安全祈禱の爲當寺より毎年
月十二日國帝祭會を之し節在佛の唐人を當寺に集候し之れ評を
奉依候免許あり

一 寶曆四年當寺安重し兼し流仏を鏡橋の下に移し市中に集候群
集を成さる此の社方、原出より九と云小成る

一 開基 鉄公
延寶五年の寶永元年並當寺在元八年
寶永三年の江戸招きよりは九年任職を

一 二代 曉岩
寶永二年の
在元十七年

一 三代 岳宗
享保十八年の
在元十二年

一 四代 信文
寬延三年の
在元三年

一 五代 智光
寶曆十年の
在元十年

當寺末庵

松月院 延享六年開基後心代建 本寺内

普門院 天和二年同代建 目前

海標庵 同三年同代建 寺内内

清海庵 貞享二年同代建 目前

日林庵 元禄元年同代建 本寺内

禅宗曹洞派 当地昭基寺末寺

瑞瑠光山妙相寺 延享七巳末年建

境内日子坪余 本河内以月

當与(延享七年昭基寺中)心代住持運流和尚今龜町内(開創)て昭基寺より兼帯せり但此寺(本)岸(本)河内村の地(正保)年

中(延)驗(志)在(後)寺(主)海(六)十(余)年(運)轉(寺)番(四)地(成)十(七)享(永)口(年)當(寺)

中(心)代(毒)然(丸)之(今)龜(町)分(以)地(移)轉(寺)當(与)院(造)寺(り)

一 山と、秋葉山権現の靈社を

一 川と龜井天満宮社を之儀、滝のあり

一 享保十七壬子年八月當寺護一日鑄造を

開基 運流 延享七年分 在後十六年 二代 徳元 元禄八年分 在後三年

三代 毒然 元禄十一年分 在後三十年 四代 石淵 享保十三年分 在後十年

五代 智順 元文三年分 在後十八年 六代 云海 享保六年分

長言宗 江戸護持院末寺

喜竜山大徳寺

元禄十六年未年建

境内子二百七十坪餘

小島川内

昔山寺号ハ坪既町内ハモシ候驗有テ京師勝徳院末寺成ト元禄十六年月珍比立右の山号ト号トモ儀ト更テ勝徳院方ハ歌末シハ府權持院末寺トモテ長崎一寺創建ト人ト當嘉梅ヶ崎荒木氏某の業ト互委山との天満宮社地ト儀ト更テ寛永九年於江府十番与村梅香崎大徳寺の地ト右形ノの如同ト年与社治年所ト形ト也此免件トモ別治年平化下ト編ト

御朱印

肥前國彼杵郡長崎十番寺村梅香崎大徳寺境内子二百七十坪餘今度附屬シ況山林竹木法役未免除シ永代

互相遠去可申國最安養ト慎行也

寛永四年八月十日

- 一 寛永六年梅ヶ崎与地ハ延シテ中島十番与村の内本郷町の寄上寄テ兼所与氏の業迄互委トト与地ハ開創ト人ト寛永梅ヶ崎与儀ト更シ業迄互委の地中川村の内あり三百市云々此地ハ相隣テ兼所与氏方ハ此地ハ相隣テ今の地ト當与創建トリ
 - 一 享保四年舊地山との天満神を當与ト移建トモテ梅香崎天満宮社建ト
 - 一 寛保二年親嘉堂建ト申号ハ聖徳太子此の十一面觀世音
- 常憲院権持洋弘權持院隆光大徳寺ハ附屬トモト安置を成

開基月珍

元禄十六年ハ在任四年

二代 光澤

寛永四年ハ在任四年

三代 寂如 寛永七年分
在任九年

四代 性亮 享保十四年分
在任七年

五代 齋元 元文元年分

禅宗源海流

城州宇治黄檗山末寺

白檜山大光寺

寛永元 甲申年建

境内 六百八十坪

八幡町 白

昔与号元天台宗の修験大光院存性城州八幡本宮の社務若法と
今勧請水に請り承負二年以地八幡宮社を創建せりを以承以町を新
紙尾町と云ふを信宮勧請以後八幡町と改り元禄六年二代良寛院存
性依願白檜山大光寺と南岳院と改り免許を以て建し寛永元年
黄檗流の僧大頂昔山号と号境内に譲を更し同六年黄檗山末
寺

八代の唐僧悦尊和尚の中子和僧理器不徒持せし黄檗山末寺と云

正八幡宮 寛政陣殿 南岳院昔寺門 葱常寺

中興国山唐僧悦尊 二代 理器 寛永六年分
在任九年

三代 砥炭 享保十七年分
在任九年 四代 大雅 寛曆元年分

禅宗曹洞派 当地暗卷寺末寺

天長山太平寺 寛延二庚午年建

境内

昔寺根元表州院法与の末寺して当地八百坪町、虚名僧經承
を免之れ長福山改寄寺の号を授り之屋古町、引移せり初代門の二代

及察三代秀水は代徳山は代角豊は代伯仙早世し寛保二年の申子探公着坊也
 一 右の如く虚巻と退物より一にの如き地略巻との申子虚山に令伯探公着坊也
 与より略巻との九合を以て故虚山に於法と、仍向の額末の如く申子探公着坊也
 持より一にを相形ふの如形とを額末を以て別虚山を譲うを更略巻寺末と
 与より後又山号と号改の申も先免とて申付大長山太平とて稱也
 一 其節略巻寺申十三代一文和尙虚山法系傳来の先師を相續と一にを申付
 同十代笑巖和尙の法脈を授り来り申を記載とす

略巻と十代
 先師 笑巖

笑巖申子
 二世 鉄舟

鉄舟申子
 三世 本玄

本玄申子
 四世 盧山

